

巻頭言

病院機能評価認定！

病院長 棚橋 忍

高山赤十字病院紀要第40号を発刊いたします。病院が発行するジャーナルは病院の医療の質を問うもので、研修医・若手医師の原著論文が多くなることを期待しています。日常臨床の中で興味ある症例、新しい知見を見つけ出し、論文としてまとめる力を養っていくことが大切です。

高山赤十字病院は本年（2016年）、赤十字病院として94周年を迎えました。長きにわたり地域の総合病院としての機能を果たしてこられたのも、地域の開業医・診療所の先生方のご協力と、行政をはじめ地域の皆様のご支援のお陰と感謝申し上げます。当院は岐阜県北部医療の最後の砦（Last Hope）として、日々の診療、保健活動、災害・救護医療をこれからも継続して行い、100周年を迎えたいと考えています。

昨年10月より地域包括ケア病棟を48床にて開設しました。平成28年の診療報酬改定において、7：1病床の施設基準の一つである「医療、重症度・看護必要度」が25%に引き上げられました。当院は飛騨医療圏の急速に進む人口減の中で、7：1病床において「医療、重症度・看護必要度」を25%以上に保つことは不可能と判断し、地域ケア病床の導入に踏み切りました。現時点では30%前後を保っており、地域包括ケア病棟への変換は成功していると思いますが、今後病院全体の中での機能を絶えず考えていかなければなりません。

本年6月に日本医療機能評価機構の審査を受けました。機能評価が開始された当時に1度受審しましたが、その後途絶えていました。その期間中も継続して地道な医療の質の向上に努めてきましたので、今一度ありのままの病院を見てもらおうと受審に臨みました。受審時の講評では褒めて頂いた点もありましたが、日本の医療のスタンダードから遅れている点も指摘されました。幸い11月4日付で一般病院2の認定通知を頂きました。今回の受審のみで終わることなく医療の質、体制を絶えず見直し、第三者からの評価にも耐えうる病院にしていきたいと思えます。

昨年よりいろいろ議論のあった新しい専門医制度が1年延期になり、平成30年度開始になりました。構想されている専門医制度がそのまま運用されると、地方病院は指導医不足、症例不足のため専攻医の確保ができなくなると懸念しています。地域医療の崩壊を更に進めないような制度設計を希望します。初期臨床研修の充実の後に専門医制度があると思いますので、切れ目なく臨床研修を充実し、専門医制度に備えていきたいと考えています。こうした積み上げの中から、10年、20年後にこの病院を支えてくれる若い力を糧としながら、「ふるさと」を守る医療を展開していきたい。

2016年12月